

COLUMN

井戸水からダム水源へ

自己水源の限界

春日井市では第4期拡張事業までは水源を地下水に求めてきましたが、急速な人口増加が見込まれ、地下水による自己水源だけでは十分な供給ができなくなることが予想されました。そこで、市としては初めて自己水源ではない愛知県営水道から水の供給を受けることになりました。

愛知県営水道

国内の多くの主要河川には、上流域に治水と利水を目的としたダムが建設され、利水目的には、一般的に発電や農業用水、工業用水と並んで水道用水があります。

愛知県では、昭和30年代にすでに水道普及率の向上、人口増加に伴う水道の需要量の大幅な増加に対し、不足を補うため、県外に水源を求めることとなりました。この水源としてダム

利水を利用することでしたが、この水源開発には多額の資金と長い年月を要するため、市町村に代わって県が水源を確保し、市町村に水道用水を供給することになり、愛知県営水道事業が発足しました。昭和37年1月には、牧尾ダムを水源とする愛知用水から給水を開始し、水路沿いの13市町村への給水を始めました。

現在は県内のほぼ全域の29市13町等をカバーするまでになっており（名古屋市と一部周辺、三河山間地域の一部を除く）、給水量は、当初は1日平均約2万立方メートルだったのが、平成17年度は約116万立方メートルまでに増えています。

給水を受けている市町全体では水量の約70%を県営水道に頼っています。

木曾川総合用水と愛知用水

愛知県営水道の水源には、木曾川

水系（尾張地域）、矢作川水系（西三河地域）、豊川水系（東三河地域）の三つがあり、本市は木曾川水系からの水を受けています。木曾川水系は、岩屋ダム（岐阜県下呂市）を水源とする木曾川総合用水（尾張水道用水）と、牧尾ダム（長野県木曾町）・阿木川ダム（岐阜県恵那市）・味噌川ダム（長野県木祖村）の三つのダムを水源とする愛知用水に分けられます。

春日井市の水道事業では、第5期拡張事業において、桃山町に県水受水ポンプ場を整備して、岩屋ダムを水源とする木曾川総合用水の水を受水することとしました。また、高蔵寺ニュータウン地区は、牧尾・阿木川・味噌川ダムを水源とする愛知用水から水を受水しており、合計は全給水量の約80%になります。